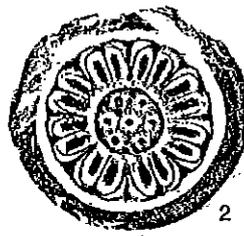


播磨の古代寺院と造寺・知識集団 15

宍粟郡・揖保郡の古代寺院

一 揖保川流域の古代寺院を歩く一

寺 岡 洋



千本屋廃寺軒丸瓦 (a群2)



中井廃寺出土軒丸瓦 (a群2と同範か)



(不鮮明だが新羅系鬼面文)

播磨地域の古代寺院跡を河川毎に歩いており、今回から揖保川流域に入ります。大きく見て、中国自動車道辺りから北側が『播磨国風土記』の宍粟郡(しさはのこほり)で、南側が揖保郡(いひほのこほり)になる。千種川上流域と揖保川支流の林田川上流も宍粟郡に入る。

宍粟(宍粟)郡の概要 一 7里・1ヶ寺

まず地名表記ですが、『播磨国風土記』では「宍禾」と記し、『和名類聚抄』では「宍粟(志佐波)」とあり、木簡では両方の表記が見られる。

里(さと)は、比治(ひじ)・高家(たかや)・柏野(かしはの)・安師(あなし)・石作(いしつくり)・雲箇(うるか)・御方(みかた)の7里。

『延喜式』『神名帳(じんみょうちょう)』には七座記載されており、単純平均すれば有力なカミ(祭祀集団)が里毎に蟠踞していた勘定になる。古代寺院は千本屋(せんぼんや)廃寺のみ。

風土記に登場する人物・神・地名・特記事項

古代寺院の造立には主導した集団・氏族と共に地縁・血縁、その他さまざまな利害関係により多くの人物が造立に参加したと考えられ、地域の人名(「知識候補リスト」)を集成したい。

比治里 「大化改新(乙巳の変)」により揖保郡から宍粟郡が分割され、里名は里長である山部(やまべの)比治の名前による

川音(かわと)村 天日槍命が宿(やど)りした  
庭音(にわと)村 庭酒(にわき)

糶(酒母)から酒を醸す(文献での初見)

奪谷 葦原志挙乎命(あしはらのしこのおのみこと)・天日槍命が、谷を奪いあった

高家里 天日槍命が高い村と言われた  
伊奈加川 葦原志挙乎命と天日槍命が国占め  
敷草村 「鉄(まがね)を生(いた)す」

安師里(もと山守里) 山部三馬が里長  
石作里 石作首(いしつくりのおびと)等が村に居た  
阿和賀(あわか)山 阿和加比売命が山に居た  
但馬朝来郡の粟鹿(あわか)を本居とした神  
雲箇里 コノハナサクヤ比売がうるはしかつた  
波加(はか)村 天日槍命と伊和大神の国占め  
御方里 \*木簡では「三方里」と表記される

葦原志許乎命が三條(みかた)の黒葛(つづら)を投げたところ、但馬の気多郡・養父郡とこの地に落ちた。天日槍命の黒葛は、皆、但馬国に落ちたので、但馬の伊都志(出石)の地を占めた。

金内(かなうち)川 「鉄を生ずは金内という」  
他に、饒磨郡伊和里の条には、「積嶮(しさは)郡の伊和君等が族」とあり、伊和君が居住する。

「風土記」にみられる宍粟郡について

- i) 天日槍が6回も登場する。とくに御方里での伝承は詳細で、「原型」かとも考えられている。
- ii) 山部(やまべ)が比治里・安師里の里長を占める。宍粟郡の郡司の名前は伝わらないが、山部が抜けていたとは考えられない。山部・山直(やまのあたひ)・山部連(やまべのむらじ)とつながり、千本屋廃寺建立を主導したと考えられる。
- iii) 鉄に関する記載が2ヶ所みられる。山部は山林・鉄資源の管理・貢納などを職掌とする集団。
- iv) 但馬との関係が深かったようだ。伊都志(出石)、粟鹿(朝来郡)など。偶然かどうか、気多郡・養父郡にも三方郷(里)がある。粟鹿では山陰道の粟鹿駅家(うまや)跡が確認されている。

宍粟(宍粟)郡の人名木簡(もっかん)

奈良文化財研究所の木簡データベースを利用し「宍禾・宍粟」で検索すると意外と多く、播磨では最多件数になる。以下、人名判明分のみ。郷と表記されるものも便宜、里に入れてある。

柏野里 山部子人・山部人足

山守里 山部赤皮・山部加之川支・日奉部奴比・  
穴毛知 \*「穴栗評」あり

三方里 神人勝牛・神人時万呂・神人(部)口  
出雲部生手 \*表記はすべて「三方」

余戸里 丸部口口

\*木簡からも山部が多い。他に、神人(みわひと)、  
出雲部、丸部(わにべ)などが目を引く。

#### 千本屋(せんぼんや) 廃寺

揖保川中流の西岸、旧穴栗郡山崎町千本屋に所在する。中国自動車道・山崎ICから南へ1km弱。千本屋廃寺跡は式内・貴船(雨祈 あめのり)神社境内および北側の観音堂と周辺の田圃である。神社の本殿には蛇(龍?)の形をした大きな注連縄が飾られ、初めて見た。報告書『播磨千本屋廃寺跡』千本屋廃寺跡発掘調査団(1982年)により紹介します。

寺域の範囲確認調査により、観音堂が建つ土壇が塔跡、その西側の建物跡Ⅱが推定金堂跡、その北側の建物跡Ⅲが推定講堂跡、西南隅に築地跡と南門痕跡などが確認されたが、いずれも遺構の残りはよくなく、基壇も明確ではなかった。

築地は東西約72m×南北108m前後と推定され、建物跡は築地内の西に偏って配置される。

遺物は、軒瓦、鷓尾(しび)、小型瓦、敷埴(しきせん)、円筒形土製品、須恵器・土師器など。

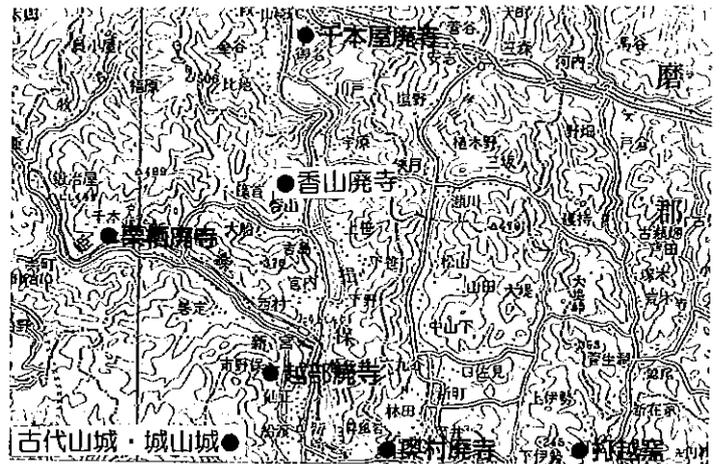
寺の創建年代は8世紀前半頃で、10世紀後半頃まで維持されていた、と推定されている。

#### 軒瓦のネットワーク

軒丸瓦は8種類あり、3群(a b c)に大別される。a群1・2の文様(複弁8葉)は、大きくは川原寺式に属し、揖保郡の小神(おがみ)廃寺・中井廃寺等でみられる。とくに、a群2は中井廃寺のものと同范かと思われるくらい酷似する。

a群3の文様(複弁8葉)は法隆寺式に近く、酷似するものが越部廃寺で採取されている。近傍では、下太田廃寺(揖保郡)が典型的な法隆寺式で、中井廃寺でも見られる。

軒丸瓦b群の文様(単弁11葉)は揖保川流域では見られない。c群は出土量がいたって少ない。c群6(単弁8葉)は国分尼寺・上原田遺跡(饒磨郡)で採取されている。



軒平瓦については、揖保川流域を中心とする特徴的な顎部(がくぶ)施文軒平瓦が出土しており、次回まとめて紹介したい。

軒瓦のネットワークは、揖保川下流域の造寺集団との関係が深かったことを推測させる。

#### 山崎町歴史郷土館

藩主の名前に由来する本田公園には陣屋門や石垣が残り、一面に図書館と山崎町歴史郷土館が同じ建物に入っている。軒丸瓦や象嵌された装飾大刀などが展示されている。

#### 揖保郡の概要 — 18里 11ヶ寺

千本屋廃寺から揖保川西岸を南に下ると4km余りで香山(こうやま)廃寺(揖保郡)が立地する。揖保郡の前身行政組織は、粒評(いひほのこほり)。風土記の揖保郡は18里からなる播磨最大の郡であり、移住・開墾記事が多い。饒磨郡とならび、渡来系集団に関する記事も多く見られ、古代寺院も11ヶ寺と多い。式内社は七社。

#### 風土記に登場する人物・神・地名など

香山(かくやま)里

飯盛山 讃伎国宇達郡(うたりのこほり)の飯(い  
い)の神の妾(め)、名は飯森の大刀自(おおとし)  
栗栖(くるす)里

若倭部連(わかやまとべのむらじ)池子

越部(こしべ)里 旧(もと)、皇子代(みこしろ)里

但馬君(たじまのきみ)小津が皇子代君として

三宅をつくった 但馬の三宅より越し来た

狭野村 別君(わけのきみ)玉手等が遠祖

河内泉郡(いづみのこほり)より移住

上岡(かみおか)里

出雲の国の阿菩(あほ)の大神

日下部(くさかべ)里

人の姓(日下部・但馬国造)に因りて名と為す

土師(はにし) 弩美宿禰(のみのすくね)と出雲

林田(はやしだ)里 本の名は談奈志(いはなし)

石成(いわなし)氏(盤梨郡石成郷)が居住か

伊勢野 衣縫猪手(きぬぬいにて)

漢人刀良(あやひとのら)

邑智(おほち)里 「駅家あり」

広山(ひろやま)里

播磨国のトップは「総領(大宰)」

麻打山 伊頭志君(いづしのきみ) 麻良比

意此(おし)川 出雲の御蔭大神・伯耆の小保呂・

因幡の布久漏・出雲の都伎也

額田部連久等々(ぬかたべのむらじくとと)

枚方(ひらかた)里

河内国茨田郡枚方里の漢人が移住

佐比(さひ)岡 漢人が鋤(さひ)を作った

佐岡 筑紫の田部(たべ)が開墾(ミヤケ)

大家(おほやけ)里 旧(もと)の名は大宮里

大宅(おほやけ)里とも記載(ミヤケ関連地名)

勝部岡 大倭千代勝部(やまとのちよのすぐりべ)

大田村與富等(よふと) 宇治連等の遠祖が開墾

大田里 紀伊の大田→摂津の大田→

呉勝(くれのすぐり)の紀伊での居住地による

鼓山 額田部連伊勢と神人(みわびと) 腹太文

石海(いわみ)里

阿曇連太牟が石海の人夫(よぼろ)により開墾

宇須伎津(うすきつ) \*百濟語のスギ地名

宇頭川(うづかわ)の泊(とまり)

浦上(うらかみ)里

阿曇連百足等が難波の浦上から移住した

御津(みつ) 石海里伊都(いつ)村にあった津

室原(むろふ)泊 \*行基五泊の櫻生(むろう)泊

神嶋 石神の腫(まなこ)を新羅人が奪った

韓浜・韓人 神の怒りで死んだ新羅人を埋めた

萩原(はぎはら)里

針間井(はりまゐ) 「韓の清水と号(なづ)く」

少宅(をやけ)里 本(もと)、漢部(あやべ)里

漢人が住んでいたのが漢部里だった

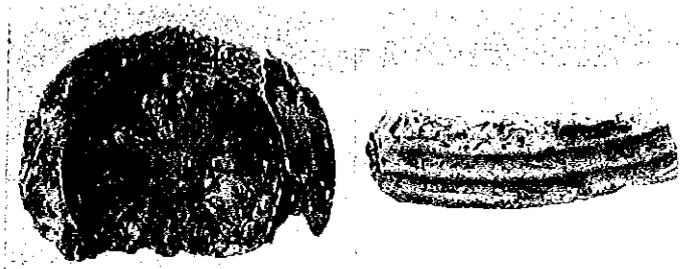
川原若狭の祖父が少宅の秦公(はたのきみ)の

女(むすめ)と結婚 孫の川原智麻呂が里長

揖保(いひぼ)里

粒丘(いひほおか) 天日槍命と葦原志拳乎命

神山(かみやま) 石神(いしがみ)が祀られる



軒丸瓦

軒平瓦

香山廃寺出土軒瓦

単弁八葉蓮華文軒丸瓦(播磨に同文はない)

重弧文軒平瓦(顎部に凹線文を施文する)

出水(いづみ)里

泉村 灌漑用の密樋(したび)あり

桑原(くははら)里 旧は倉見村

桑原村主(くわはらのすぐり)等の居住地

揖保郡(粒評)の人名木簡、その他

上岡里 口部口口(廣庭か)

林田里 鴨部

浦上里 安曇

里(郷)名不明 若倭部・乎加ツ

布勢郷 口部乙公 \*布勢駅(ふせのうまや)

少宅郷 呉部首(くれべのおびと) 種麻呂

秦田村君有磯(はたたむらのきみありそ)

「正倉院文書」天平15年(743)

針間阿宗君(はりまあそのきみ) 『古事記』

佐伯直諸成 播磨国揖保郡人・外従五位下

『続日本紀』延暦七年(788)

佐伯君麻呂 播磨国揖保郡の百姓

『続日本紀』延暦八年(789)

「風土記」などにみられる揖保郡について

関連記事を項目に分けて列挙する(「」は木簡)。

- ・渡来人 衣縫猪手・漢人刀良、漢人(河内)、大倭千代勝部、呉勝・呉部首種麻呂、新羅人、韓人、川原若狭・川原智麻呂、少宅秦公、秦田村君有磯、桑原村主、天日槍、
- ・移住 讃伎国宇津郡、別君玉手、日下部、土師、石成、伊頭志君麻良比、宇治連、額田部連久等々、阿曇連百足、「安曇」
- ・ミヤケ 但馬君小津(越部屯倉)、筑紫の田部、阿曇連太牟(石海の人夫)、大宅里
- ・在地? 若倭部連池子、「若倭部乎加ツ」、

「鴨部」、神人腹太文、針間阿宗君、  
佐伯直諸成（造船瀬所）、佐伯君麻呂

- ・地名 宇須伎津、針間井（韓の清水）、韓浜、  
勝部岡、漢部里 \*渡来関連地名
- ・その他 伊頭志君・但馬君・針間阿宗君の母族  
は天日槍の系譜

これらの記事を見ると、揖保川流域（播磨全域に共通するが）の特徴は渡来人、移住による開拓がある時期から集中的に行われ、ミヤケの設立が進められたと考えられる。これらのミヤケを中核とし、乙巳の変（大化の改新）頃より周辺地域が評（郡）として再編成されていたのであろう。穴禾郡の揖保郡からの分離、里の改名はこの再編成と関連している。

#### 古代寺院の造立集団・「知識」

以上のような理解が正しければ、白鳳時代に建立された古代寺院は、風土記などに記された渡来系氏族や諸集団、あるいはその後孫が主導して地域の「知識」を組織し、建立したものと考えるのが妥当なのではないだろうか。

通説のように、他氏・他集団を排除し、ある特定の氏族・集団のみが寺院・氏寺を建立できたとすれば、多くの氏族・集団が居住し、地域の利害が輻輳する中において、どのような状況であれば可能かを別途検討しなければならない。

#### 香山（こうやま）廃寺

香山廃寺は揖保川西岸、旧揖保郡新宮町香山の山麓に近い平地に位置する。「道路地図」に記載のある大歳神社のすこし西北、薬師堂と周辺の公園一帯が廃寺跡になる。

圃場整備により寺域の確認調査が行われ、報告書（『香山—縄文遺跡と古代寺院跡—』新宮町教育委員会 1987年）が刊行されている。

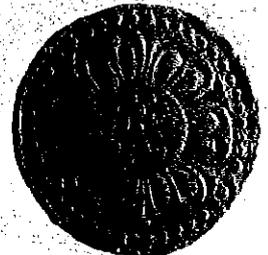
観音堂北側に石碑が立っており、台座の石材には今は見えないが穴があったと伝えられ、塔心礎である可能性が高い。

寺域は、東西約84m・南北88mで、北側と西側に石敷遺構（築地堀？）、薬師堂の西側に金堂の可能性が高い建物の存在が推定されている。

建物の遺構は明確ではなかったが、鷗尾（しむ）の破片や多くの軒瓦が出土しており、古代寺院跡であることは疑問の余地がない。



鬼瓦



軒丸瓦

栗栖廃寺出土軒瓦 鬼瓦（奥村廃寺 → 栗栖廃寺）

珠文帯複弁六葉蓮華文軒丸瓦

（奥村廃寺→栗栖廃寺→越部廃寺→長尾廃寺）

寺院は、8世紀第2四半期頃に創建され、9世紀中葉頃まで維持されたと推定されている。

なお、寺院跡東側の排水溝の調査では、墨書土器を含む9～10世紀頃の大量の土器が出土する個所があり、周辺に官衙施設があると予測される。

#### 越部（こしへ）廃寺

越部廃寺は、JR姫新線と揖保川の支流・栗栖川の西南、市野保（いちのほ）の集落内。場所は薬師堂が目標だが、地元の方に尋ねるしかない。

南には美作道の越部駅家（うまや）があった。香山廃寺とは4.5kmばかり距離がある。小規模な発掘調査が行われ、『香山』で報告されている。

薬師堂は土壇（東西約12m×南北約10m、高さ約0.8m）の上に建っており、その規模から塔跡と推定されている。薬師堂内には傷みがひどいが古式の仏像が残されている。遺構の詳細は不明。

#### 栗栖（くりす）廃寺

栗栖廃寺はJR姫新線、国道179号線（出雲街道）沿いに播磨新宮駅から7km弱西、新宮町干本に位置する。このコースは古代美作道と重なる。遺構確認のため調査が行われている（『栗栖里』新宮町教育委員会 1994年）。

遺構は礫積基壇の一部が確認されたが、その他の詳細はまだ不明である。推定寺域は依藤塚（よりふじつか）と浄福寺の南側一帯になる。

香山廃寺・越部廃寺・栗栖廃寺の瓦ネットワークについては、次号で取り上げたい。

今回、干本屋廃寺から栗栖（くりす）廃寺まで、義則さん（たつの市教委）のお世話になりました。